

受難節第1主日礼拝説教(2011年3月13日、於山形本町教会)

「神の憐れみと神の義」(ハイデルベルク⑤)

聖書 詩編 103 編 6 節～13 節
マタイによる福音書 25 章 31 節～46 節
賛美歌 307、399、149、50、28
交読文 103・1～22b、113・1～9
石井美琴

11日に起きた地震を、昨日の夕刊では「東日本大地震」と伝えました。この地震は、山形では、2時46分に起きたとのことですが、私はその時間、牧師館にいました。地震はすぐに止むだろうと、最初は落ち着いていたのですが、揺れの大きさと長さに慌て出し、とりあえず携帯電話を手にとって、わたわたしていました。地震の最中に電気が落ち、そして、断水になりましたが、この山形で自分にこんな経験が訪れるのかと茫然とした長い一日でした。一晩、町は真っ暗で、キャンドルサービスに用いられたろうそくを灯しながら過ごしましたが、電気と水が断たれることの不安は、経験がなければ分からないものどつくづく思っていました。道を歩く人の顔が見えないことは、言いようがなく不安ですし、復旧の見通しのない夜は、心の中にも暗闇が迫って来るような思いだったのは、皆が感じたことだったと思います。

それと同時に、私たちは本当に、様々な災いを免れて、生きていることをも思わされました。食べさせていただかなければ、私たちは飢えており、飲ませていただかなければ、私たちは渴いており、そして、あるはずの宿がなければ、私たちはどこかに宿らせてもらわなければならない、当たり前前に思って来たものが断たれて初めて、私たちには全てが整えられ、備えられていたことを知ります。

本町は一日で復旧しましたが、復旧の見通しがつかない暗い夜を一日二日と重ねなければならない人たちの辛さに震撼する思いでした。

守っていただいた、救っていただいた私たちは、小さなことでも何かをしようと思えます。復旧後も電気をなるべく使わないようにすること、自分ができる小さなことをしようと思えます。インターネットの書き込みサイトのツイッターでは、夕食の時間を少しずつずらして、全国で使用電力が一気に上がらないようにしようと言われていることをラジオで聞きました。安否を尋ね合うこと、困っていると近所の人たちと助け合うこと、しなければならないからではなく、しないではいられないからする多くのことがあります。

マタイによる福音書25章31節以下は、こうしたら救われる、こうしなければ救われない、と言う話ではなく、そうせずにはいられないから、無心に行為することを言っているのではないかと思うのです。

「さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎな

さい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。」

このように語られる主イエスは、私たちの誰よりも断たれることの辛さ、厳しさを知っておられます。私たちが生きるために必要なライフラインが断たれることの辛さ、災害がもたらす体の痛みや喪失体験から来る心の痛み、命を奪われるまでの苦しみを体験されたのは、主イエスこの方御一人だけです。断たれることの辛さと厳しさを痛切に知っておられる主は、私たちのどのような痛みをも他人事として感じることはできないのです。すべての苦しみを担われ、死に至るまでの苦しみに耐えられたからこそ、主イエスは、飢えた人、渴いた人、宿のない人、裸の人、病の人、捕らわれた人の痛みを見て見ぬふりはできないのです。救わずにはいられないのです。主イエスは、死から復活させられ、全ての痛みから救われた者として、この救いを与えずにはいられないのです。

自分が救われたことを知る人は、この主イエスに似た人となります。救われた者として、与えられた者として、私たちが人と接する時には、私たちはすでに行為する者となっています。なぜなら、欠乏しているのは、自分に関係のない他者ではなく、自分の身に起きていることとして心が痛むからです。そして、この欠乏と心の痛みに、主イエスの十字架の犠牲を垣間見ることが出来るからです。

主イエスは、私たちがたたずんだあの暗闇の中に居てくださる、私たちの目には見えない救いのご計画を、今この時にこそ進めてくださっていることを、私たちは主の十字架の御苦しみから知るのであります。

私たちに今もふりかかる混乱と不安があります。そして、それと同時に救われた私たちの命があります。命がある今は、救われた現在に他ならない、ただこのことからだけでも、私たちは主に感謝し、そして、なお、私たちが負うはずだった苦しみを今なお追っているお一人お一人の為に、主の名によって祈りを合わせてまいりたいと思います。